

放鳥から15年経過時点のコウノトリの野生復帰に関する豊岡市民へのアンケート調査の結果と考察

*本田裕子¹

A study on the civil awareness in Toyooka City about the re-introduction of Oriental White Storks 15 years after the first release

* Yuko Honda¹

¹ Department of Public Policy, Faculty of Socio-Symbiosis, Taisho University

3-20-1, Nishi-sugamo, Toshima-ku, Tokyo, 170-8470 Japan

* E-mail: yukohonda2013@gmail.com

背景・目的

2021年はコウノトリ (*Ciconia boyciana*) が日本国内で野生下絶滅した年となる1971年から50年という節目を迎える。2020年12月31日現在、兵庫県立コウノトリの郷公園が確認する野外での生息数は220羽となり、50年前のコウノトリ自身の悲惨な状況と比べると隔世の感がある。一方でコウノトリを取り巻く状況は、自然環境、社会環境ともに大きく変化した。東京等の大都市に人口が集中し、産業構造も大きく変化し、コウノトリをはじめとする絶滅危惧種の多くが生息する里地里山は減少し、またその維持を担ってきた農林業従事者も大きく減少した。総務省が2019年12月に公表した「過疎対策の現況」では、いわゆる過疎地域の人口は全国の8.6%を占めるに過ぎないが、過疎地域の面積は国土の6割弱を占めている。豊岡市の人口も「国勢調査」で見ると、1970年は94,732人であったのが、2015年は82,250人、2020年12月末の住民基本台帳では79,906人と減少傾向が続いている。

一方で、自然環境を保全する動きも進んでいる。2003年に施行された「自然再生推進法」は、過去に損なわれた自然環境を取り戻すことを目的としている。羽山(2019)は「再導入とは、1種の絶滅危惧種を救うためだけに行うものではなく、生態系の復元を行うための手法

であり、まさに自然再生事業のひとつなのである」(p150)と述べている。コウノトリの野生復帰も、コウノトリを頂点とする「生態系の復元」という視点に立って、さまざまな取り組みが展開されている。

筆者は兵庫県豊岡市において、コウノトリの野生復帰をめぐる住民意識をインタビュー調査やアンケート調査を通じて把握することをこれまで試みてきた。その中で豊岡市全域を対象とした市民アンケート調査は、2006年1月、2011年1月、2015年11月に実施してきた。それぞれの調査結果は、本田(2006)、本田・菊地(2011)、本田(2016)にて公表している。

本研究では、2005年9月に豊岡市で最初に放鳥されてから15年が経過した段階でのコウノトリおよびコウノトリの野生復帰を豊岡市民がどのように捉えているのかを明らかにすることを目的として実施したアンケート調査の結果を報告し、現時点での豊岡市民の意識について考察を行う。

なお、豊岡市全域を対象にアンケート調査を実施する意義については、まず、豊岡市が「コウノトリとの共生」をまちづくりの柱としてこれまでさまざまな取り組みを推進してきたことが挙げられる。これまでのアンケート調査結果からも、コウノトリの野生復帰は市民にとって高い関心事項であることが把握できているので、継続的に市民の意識を把握することは、必要な対応を考える際に有用であると考えられる。

他方で、豊岡市に限らず、コウノトリの生息や繁殖に近年広がりが見られていることが挙げられる。放鳥事業でいえば千葉県野田市や福井県越前市、野外繁殖が成功した自治体でいえば徳島県鳴門市、島根県雲南市、鳥取県鳥取市、栃木県小山市等複数あり、そして今後野外繁殖が期待されている自治体としては茨城県神栖市も挙げられる。これらの自治体にとっては、豊岡市でのコウノトリおよび野生復帰に関する市民意識のデータとその分析は非常に興味深いものとなると考えられ、これらの自治体が今後取り組みを推進していく上での参考資料になることが期待される。

¹大正大学社会共生学部公共政策学科
170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

* E-mail: yukohonda2013@gmail.com

表1. アンケート票の構成.

質問番号	質問内容
1	回答者の年代・性別
2	回答者の居住地・豊岡市内の居住年数
3	地域（兵庫県・豊岡市・合併前旧市町）への定住意思の程度
4	回答者の職業
5	豊岡市を象徴するもの
6	「豊岡市の自然」のイメージ
7	環境政策・取り組みに関する認知
8	コウノトリのイメージ
9	暮らしの中でのコウノトリへの意識
10	コウノトリの保護に関する認知
11	かつて（昭和46年以前）のコウノトリ目撃の有無
12	野外に生息するコウノトリの目撃
13	野生復帰の賛否
14	野生復帰についての心配
15	野生復帰についての期待
16	コウノトリの豊岡での生息希望
17	コウノトリの豊岡以外への移動・生息
18	豊岡市内でこれからもコウノトリが生息するために何かをする意思
19	日本国内でのコウノトリの野外での生息数
20	豊岡市内でのコウノトリの野外での繁殖数（巣立ち数）
21	コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動
22	将来のコウノトリによる農業被害
23	身の周りでのコウノトリによる被害
24	野外で生息するコウノトリの死亡
25	豊岡市内で生息するコウノトリの責任主体
26	豊岡市において今後野生復帰を推進していく上での課題
27	野生復帰の評価
28	回答者自身のコウノトリの位置づけ
29	豊岡市内に生息する「コウノトリ以外で守るべき動植物」
30	豊岡市の環境課題
31	未来の豊岡市（生息数・人とコウノトリとの関係・豊岡市の社会SDGs）
32	豊岡市の課題

方法

豊岡市は人口79,962人（2020年10月末時点の住民基本台帳より）である。アンケート調査は、豊岡市コウノトリ共生課の協力を得て、2020年10月20日時点での住民基本台帳より無作為に抽出した20歳から79歳の男女1,000人をアンケート票送付の対象とした。2020年11月の約1か月間郵送（発送日10月30日、返信開始日11月2日、回収締切日11月27日となる。なお回収締切日を2週間程度経過したものも回収数に含めた）により実施し、回収数は610通で、回収率は61.1%となった（1,000通発送したうち、宛先不明での返送が2通あり、998通内610通で計算した）。無作為抽出によるアンケートとしては、回収率は高いといえる。ちなみに、これまで実施したアンケート調査の回収率は、2006年調査は59.4%、2011年調査は56.9%、2015年調査は54.0%であり、今回のアンケート調査の回収率が最も高くなった。コウノトリの野生復帰への関心が高いことも推察されるが、2020年初頭から感染拡大が続く新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により自宅で過ごす人が多くなっていることも背景にあると思われる。

アンケート票は全32問で質問項目は表1に整理した。基本的にはこれまで実施したアンケート票の質問項目を

踏襲しているが、最初の放鳥から15年が経過していることで新たに質問した項目もある。なお、今回実施したアンケート調査結果をこれまでの調査結果と比較して考察することも必要であるが、その比較および検討は別稿に譲り、本研究では32問の質問結果を単純集計し、現時点での市民意識の結果について報告し、考察する。

結果

1. 回答者の属性

アンケート結果から、「回答者の特徴（年代・性別、居住地、定住意思、職業、環境政策・取り組みの認知）」を取り上げ、回答者が母集団である豊岡市全域住民をどのように代表しているのかを述べる。以降、アンケート結果は質問毎で回答者数が異なっている。コウノトリおよび野生復帰についての認識をより多くの住民から把握することに主眼を置いているためである。

1-1) 回答者の特徴

回答者の平均年齢は52.2歳となった。回答者の年代・性別（表2）では、70歳代女性が最も多く、次に60歳代女性が続いている。居住地は、2005年の豊岡市合併以前の旧市町単位で集計した結果、豊岡地区に居住する住民が最も多くなった（表3）。豊岡市内での居住年数では、「20

表2. 回答者の年代・性別.

年代	男 (%)	女 (%)	回答しない (%)	合計 (%)
20歳代	19 (3.3)	24 (4.1)	0 (0.0)	43 (7.4)
30歳代	21 (3.6)	32 (5.5)	0 (0.0)	53 (9.2)
40歳代	32 (5.5)	44 (7.6)	1 (0.2)	77 (13.3)
50歳代	36 (6.2)	54 (9.3)	0 (0.0)	90 (15.5)
60歳代	62 (10.7)	69 (11.9)	0 (0.0)	131 (22.6)
70歳代	63 (10.9)	78 (13.5)	0 (0.0)	141 (24.4)
回答しない	6 (1.0)	21 (3.6)	17 (2.9)	44 (7.6)
全体	239 (41.3)	322 (55.6)	18 (3.1)	579 (100.0)

表3. 回答者の居住地.

合併前旧市町	人数	(%)
豊岡	331	(54.8)
日高	104	(17.2)
出石	83	(13.7)
但東	38	(6.3)
竹野	32	(5.3)
城崎	16	(2.6)
回答者数	604	(100.0)

表4. 豊岡市内での居住年数.

選択肢	人数	(%)
生まれてからずっと	242	(40.0)
3年未満	15	(2.5)
3年以上5年未満	9	(1.5)
5年以上10年未満	20	(3.3)
10年以上20年未満	61	(10.1)
20年以上	258	(42.6)
回答者数	605	(100.0)

表5. 兵庫県内、豊岡市内および地区内への定住意思.

選択肢	兵庫県内 (%)	豊岡市内 (%)	地区 (合併前旧市町単位) (%)
おおいに思っている	350 (75.4)	339 (68.1)	356 (65.3)
少し思っている	41 (8.8)	54 (10.8)	55 (10.1)
どちらともいえない	59 (12.7)	71 (14.3)	88 (16.1)
あまり思っていない	6 (1.3)	18 (3.6)	24 (4.4)
ほとんど思っていない	8 (1.7)	16 (3.2)	22 (4.0)
回答者数	464 (100.0)	498 (100.0)	545 (100.0)

表6. 職業 (複数回答を含む).

選択肢	人数	(%)
勤め人	161	(26.6)
アルバイト・パートタイム	104	(17.2)
無職	86	(14.2)
家事専業	76	(12.6)
自営業	64	(10.6)
公務員・団体職員・教員	63	(10.4)
農業	49	(8.1)
学生	8	(1.3)
林業・水産業	2	(0.3)
その他	14	(2.3)
回答者数	605	-

表7. 豊岡市の環境政策等に関する認識.

質問項目	はい (%)	いいえ (%)	回答者数
(1) 環境問題全般に関心があるか	461 (76.8)	139 (23.2)	600
(2) 豊岡市の環境政策に関心があるか	390 (65.7)	204 (34.3)	594
(3) 「生物多様性」という言葉を聞いたことがあるか	348 (58.3)	249 (41.7)	597
(4) 「SDGs (持続可能な開発目標)」という言葉を知っているか	144 (23.9)	458 (76.1)	602
(5) 2007年4月に施行された「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」を知っているか	201 (33.5)	399 (66.5)	600
(6) 2013年9月に策定された「豊岡市生物多様性地域戦略」を知っているか	97 (16.2)	500 (83.8)	597
(7) 2012年7月に「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録されたことを知っているか	366 (61.1)	233 (38.9)	599

年以上」と「生まれてからずっと」が約8割となった(表4).

居住地域への定住意思について、「あなたは以下の地域内に特別な事情が発生しない限り、今後も住み続けようと思っていますか?」という質問をしたところ、「おおいに思っている」の割合が最も大きかったのは兵庫県となった(表5). 定住意思は地域への愛着の程度を示すといえ、中でも兵庫県への愛着が高いことが伺える.

職業は、兼業で農業従事している回答者がいることを想定し、複数回答とした(表6). その結果、「勤め人」が最も多く、次いで「アルバイト・パートタイム」、「無職」となった. なお、「農業」では、農業のみを回答した専業農家と推定される回答者は33人(67.3%), 他の選

択肢も併せて回答した兼業農家と推定される回答者は16人(32.7%)となった.

豊岡市の環境政策を含めた取り組みに関する認識については表7に整理した. 環境問題への関心の有無については、「はい」(関心がある)は76.8%であった. 豊岡市の環境政策については、65.7%が「はい」(関心がある)と回答していたが、実際の施策についての認知、例えば、「豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例」の認知は33.5%、「豊岡市生物多様性地域戦略」の認知は16.2%と低かった. 一方で、「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録されたことの認知は61.1%となり、条例や生物多様性地域戦略と比較すると高くなった. また、「生物多様性」の認知は58.3%.

表8. 設問『「豊岡市の自然」と聞いて、どのような場所を最も強くイメージしますか』に対する回答（自由記述，複数回答を含む）。

回答	人数 (%)
円山川	112 (20.7)
山	76 (14.0)
田んぼ/水田	61 (11.3)
神鍋/神鍋山/神鍋高原	59 (10.9)
海	52 (9.6)
コウノトリ	36 (6.6)
玄武洞/玄武洞公園	25 (4.6)
日本海	17 (3.1)
竹野浜/竹野海岸/竹野海水浴場	14 (2.6)
河川	9 (1.7)
兵庫県立コウノトリの郷公園	9 (1.7)
スキー場	8 (1.5)
盆地	8 (1.5)
六方田んぼ	8 (1.5)
霧	7 (1.3)
畑	6 (1.1)
来日岳/来日山	6 (1.1)
城崎/城崎温泉	5 (0.9)
雪/雪山	5 (0.9)
夏暑く冬寒い	4 (0.7)
出石/出石川/出石城	3 (0.6)
田舎	3 (0.6)
海水浴場	3 (0.6)
但馬海岸	3 (0.6)
曇天/雨が多い	2 (0.4)
おおらか/穏やか	2 (0.4)
かばん	2 (0.4)
山陰海岸	2 (0.4)
山あいの集落/山村	2 (0.4)
日和山/日和山海岸	2 (0.4)
豊か	2 (0.4)
緑	2 (0.4)
その他	18 (3.3)
回答者数	542 -

注：2つ以上回答のあった項目を挙げ、1つのみの回答は「その他」とした。複数のキーワードを集計したため、複数回答扱いとなった。

表9. 回答者と調査対象者の比較：年代。

	20歳代 (%)	30歳代 (%)	40歳代 (%)	50歳代 (%)	60歳代 (%)	70歳代 (%)	計 (%)
回答者	44 (8.0)	53 (9.7)	78 (14.2)	95 (17.3)	135 (24.6)	143 (26.1)	548 (100.0)
非回答者	6400 (11.4)	7657 (13.6)	10136 (18.0)	9859 (17.5)	11129 (19.7)	11201 (19.9)	56382 (100.0)
住民基本台帳	6444 (11.3)	7710 (13.5)	10214 (17.9)	9954 (17.5)	11264 (19.8)	11344 (19.9)	56930 (100.0)

注：有意差が認められた ($\chi^2=32.8$, 有意水準1%, $df=5$)。

表10. 回答者と調査対象者の比較：性別。

	男 (%)	女 (%)	計 (%)
回答者	242 (42.5)	327 (57.5)	569 (100.0)
非回答者	28066 (49.8)	28295 (50.2)	56361 (100.0)
住民基本台帳	28308 (49.7)	28622 (50.3)	56930 (100.0)

注：有意差が認められた ($\chi^2=11.9$, 有意水準1%, $df=1$)。

「SDGs (持続可能な開発目標)」の認知は23.9%であった。

『「豊岡市の自然」のイメージ』については、自由記述で記入してもらう形式をとり、542人から回答を得た。結果は表8に整理した。「円山川」が20.7%と最も多くなり、「山」や「田んぼ/水田」、「神鍋/神鍋山/神鍋高原」が続いた。

1-2) 回答者と調査対象者の比較

ここでは、回答者が母集団を代表しているのか、回答者の属性を、豊岡市全域の住民構成と比較する。方法としては、アンケート対象者を無作為抽出した時期とほぼ

同時期の2020年10月末時点での住民基本台帳を用い、今回のアンケート回答者を年代別、性別、居住地別それぞれの属性の構成が、住民基本台帳からアンケート回答者を除くことで算出した非アンケート回答者におけるそれと変わらない、という帰無仮説を立てて、カイ二乗検定を実施した。また、コウノトリは水田を中心とする農業環境に依存するので、農業従事についても、2015年の国勢調査の結果をもとに同様の方法でカイ二乗検定を実施した。

年代・性別では住民基本台帳の構成とは異なる、とい

表11. 回答者と調査対象者の比較：居住地（合併前旧市町）.

	豊岡 (%)	日高 (%)	出石 (%)	但東 (%)	竹野 (%)	城崎 (%)	計 (%)
回答者	331 (54.8)	104 (17.2)	83 (13.7)	38 (6.3)	32 (5.3)	16 (2.6)	604 (100.0)
非回答者	30360 (53.9)	11239 (20.0)	6724 (11.9)	2674 (4.7)	3028 (5.4)	2301 (4.1)	56326 (100.0)
住民基本台帳	30691 (53.9)	11343 (19.9)	6807 (12.0)	2712 (4.8)	3060 (5.4)	2317 (4.1)	56930 (100.0)

注：有意差が認められなかった ($\chi^2=9.99$, 有意水準1%, $df=5$).

表12. 回答者と調査対象者の比較：農業従事.

	農業 (%)	非農業 (%)	計 (%)
回答者	49 (8.1)	556 (91.9)	605 (100.0)
非回答者	2153 (5.4)	37951 (94.6)	40104 (100.0)
国勢調査	2202 (5.4)	38507 (94.6)	40709 (100.0)

注：有意差が認められた ($\chi^2=8.69$, 有意水準1%, $df=1$).

表13. 暮らしの中でのコウノトリへの意識の程度.

選択肢	人数	(%)
常に意識している	65	(10.7)
ときどき意識することがある	363	(59.8)
あまり意識しない	141	(23.2)
意識したことがない	38	(6.3)
回答者数	607	(100.0)

表14. 暮らしの中でコウノトリを意識する時（複数回答を含む）.

選択肢	人数	(%)
実際に野外に生息するコウノトリを目撃した時	323	(75.8)
田んぼの近くを通った時	212	(49.8)
コウノトリに関して新聞テレビ報道を見た時	131	(30.8)
人工巣塔の近くを通った時	123	(28.9)
農作業時	27	(6.3)
悪天候の時	2	(0.5)
その他	18	(4.2)
回答者数	426	-

注：「常に意識している」「ときどき意識することがある」の回答者に質問した.

表15. かつての野外に生息するコウノトリの目撃の有無.

選択肢	人数	(%)
目撃あり	130	(21.6)
目撃なし	413	(68.7)
覚えていない	58	(9.7)
回答者数	601	(100.0)

表17. 目撃頻度.

選択肢	人数	(%)
ほぼ毎日	36	(6.3)
週に2~5回程度	89	(15.5)
週に1回程度	85	(14.8)
1か月に2, 3回程度	95	(16.6)
1か月に1回程度	62	(10.8)
2, 3か月に1, 2回程度	73	(12.7)
半年に1, 2回程度	54	(9.4)
1年に1, 2回程度	68	(11.8)
その他	12	(2.1)
回答者数	574	(100.0)

表16. 現在の野外に生息するコウノトリの目撃の有無.

選択肢	人数	(%)
目撃あり	575	(94.7)
目撃なし	32	(5.3)
回答者数	607	(100.0)

う結果となった（表9）。年代では特に70歳代において違いが見られた。性別では女性が多くなった（表10）。居住地に関しては、帰無仮説は棄却されなかった（表11）。一方で、農業従事については、帰無仮説が棄却され、アンケート回答者は農業従事の割合が多くなっていることがわかった（表12）。

以上の結果から、今回のアンケート回答者は、年代および性別では一部代表性が認められないものとなった。特に年代については、若年層の返信率が低いというアンケート調査そのものの課題ともいえ、このような偏りが生じることはやむを得ない状況であろう。本研究でも、これらの偏りがあったことを前提にして、分析していくものとする。

2. 住民が捉える野生復帰に関する意識

アンケート結果から、2-1) 暮らしの中でのコウノトリへの意識、2-2) コウノトリの保護・野生復帰の認識、

2-3) コウノトリの位置づけ、2-4) コウノトリの生息、2-5) コウノトリの野生復帰のための環境教育・啓発活動、2-6) 未来の豊岡市（コウノトリの生息数、コウノトリとの関係、SDGs）、2-7) 豊岡市の課題の7項目に分けて報告する。

2-1) 暮らしの中でのコウノトリへの意識

暮らしの中でのコウノトリへの意識について、最も多かったのが「ときどき意識することがある」（59.8%）となった（表13）。具体的にどのような時に意識するかについては、「実際に野外に生息するコウノトリを目撃した時」が最も多くなり、「田んぼの近くを通った時」、「コウノトリに関して新聞テレビ報道を見た時」や「人工巣塔の近くを通った時」が続いた（表14）。「その他」では「運転中」などの記述がみられた。

コウノトリの目撃については、コウノトリが野生下で絶滅した1971年（昭和46年）以前の目撃の有無については、回答者の約2割が目撃したことがあるという結果となった（表15）。一方、現在の野外に生息するコウノ

表18. 目撃場所 (複数回答を含む).

選択肢	人数 (%)
田んぼにいた	470 (81.7)
空を飛んでいた	362 (63.0)
電柱・鉄塔の上にいる	217 (37.7)
川の中や近くにいた	194 (33.7)
人工巣塔の上にいる	190 (33.0)
コウノトリの郷公園内にいた	123 (21.4)
湿地にいた	79 (13.7)
水路にいた	45 (7.8)
その他	9 (1.6)
回答者数	575 -

表19. 目撃の感想 (複数回答を含む).

選択肢	人数 (%)
大きいと思った	307 (53.5)
嬉しかった	293 (51.0)
美しい／きれいと思った	213 (37.1)
周囲の景色に溶け込んでいると思った	135 (23.5)
希少／貴重だと思った	118 (20.6)
めでたいと思った	106 (18.5)
驚いた	69 (12.0)
何も思わなかった	39 (6.8)
懐かしいと思った	32 (5.6)
戸惑った／気を遣うと思った	5 (0.9)
憎らしいと思った	1 (0.2)
追い払いたいと思った	0 (0.0)
その他	20 (3.5)
回答者数	574 -

表20. コウノトリの保護への認識に関する質問の結果.

質問項目	はい／知っている (%)	いいえ／知らない (%)	存在を知らない (%)	回答者数
(1) コウノトリが絶滅のおそれがあること	563 (92.8)	44 (7.2)	- (-)	607
(2) 豊岡市内においてコウノトリの保護増殖活動が行われていること	524 (86.3)	83 (13.7)	- (-)	607
(3) 飼育に尽力された松島興治郎氏のこと (「名前を聞いたことがある」を含める)	304 (50.2)	302 (49.8)	- (-)	606
(4) 豊岡市内でコウノトリの野生復帰が行われていること	583 (96.0)	24 (4.0)	- (-)	607
(5) 県外の自治体 (千葉県野田市・福井県越前市) で野生復帰が実施されていること	255 (42.0)	352 (58.0)	- (-)	607
(6) 県外の自治体 (徳島県鳴門市・島根県雲南市等) で野外繁殖していること	302 (49.8)	304 (50.2)	- (-)	606
(7) 韓国でも野生復帰が実施されていること	211 (34.9)	394 (65.1)	- (-)	605
(8) 県立コウノトリの郷公園に行ったこと	529 (87.1)	76 (12.5)	2 (0.3)	607
(9) 「ハチゴロウの戸島湿地」に行ったこと	238 (39.3)	317 (52.3)	51 (8.4)	606
(10) 「コウノトリ育む農法」のお米を購入したこと	221 (36.5)	379 (62.5)	6 (1.0)	606
(11) 豊岡市内でのコウノトリ学習を含めた「ふるさと教育」の取り組み	181 (30.0)	423 (70.0)	- (-)	604

りについて、回答者の94.7%が目撃していた (表16)。目撃頻度 (表17) は回答が分散し、「1か月に2, 3回程度」や「週に2~5回程度」, 「週に1回程度」が多く選ばれている。目撃場所 (表18) は「田んぼにいた」が最も多く選ばれ、「空を飛んでいた」が続いた。複数の箇所が選ばれており、コウノトリがいろいろな場所で目撃されていることがわかる。

目撃した際に抱いた感想 (表19) については、「大きいと思った」や「嬉しかった」が多く選ばれ、「美しい／きれいと思った」が続き、コウノトリに対して好意的な感想を持って目撃されていることが明らかになった。一方、「追い払いたいと思った」はゼロ回答、「戸惑った／気を遣うと思った」や「憎らしいと思った」は少数の回答となり、かつてのコウノトリへの害鳥感情は、現在の目撃者にはほとんど存在していないことが伺える。「その他」では「一日良い事があるように思う」等のポジティブな感想が複数記述される一方、「大きすぎて飛ぶ姿は少し怖い感じもする」, 「早く横断してくれ」, 「金食虫」といったネガティブな感想の記述もあった。

2-2) コウノトリの保護・野生復帰の認識

コウノトリの保護・野生復帰への認識については11の質問をし、表20に結果をまとめた。コウノトリが絶滅のおそれがあること、豊岡市内における保護増殖活動の認識、豊岡市内で野生復帰が実施されていることの認識は、それぞれ92.8%, 86.3%, 96.0%と非常に高い割合であった。長年コウノトリの飼育に尽力した松島興治郎氏の認知は50.2%であった。豊岡以外での野生復帰の実施については、県外の自治体 (千葉県野田市・福井県越前市) で実施されていることの認知は42.0%、韓国で実施されていることの認知が34.9%であった。県外の自治体 (徳島県鳴門市・島根県雲南市等) での野外繁殖についての認知は49.8%となった。県立コウノトリの郷公園について、「行ったことがある」という割合は87.1%と高く、「存在を知らない」は0.3%であったことから、多くの人に認知された施設であるといえる。2009年に設立された「ハチゴロウの戸島湿地」については「行ったことがある」という割合は39.3%で、コウノトリの郷公園と比較すると高い数字ではないが、「存在を知らない」は8.4%となった。また、「コウノトリ育む農法」のお米を購入したことがある割合は36.5%であるが、「存在を知らない」は1.0%で

表21. 野生復帰の賛否.

選択肢	人数	(%)
おおいに賛成	265	(43.7)
どちらかといえば賛成	226	(37.2)
どちらともいえない	99	(16.3)
どちらかといえば反対	9	(1.5)
おおいに反対	8	(1.3)
回答者数	607	(100.0)

表22. 野生復帰への賛否に関し「賛成」の理由（複数回答を含む）.

選択肢	人数	(%)
環境にとっていいことだから	254	(51.8)
豊岡市の活性化になるから	240	(49.0)
もともと野生の鳥だから	195	(39.8)
コウノトリにとっていいことだから	185	(37.8)
野外に生息するコウノトリを見て、肯定的な感想を持ったから	84	(17.1)
農業にとっていいことだから	62	(12.7)
経済効果を生み出せるから	48	(9.8)
自分にメリットがあるから	2	(0.4)
その他	11	(2.2)
回答者数	490	-

表23. 野生復帰への賛否に関し「どちらともいえない」の理由（複数回答を含む）.

選択肢	人数	(%)
賛成・反対の気持ちを両方感じているから	44	(44.9)
自分の生活に関係があるのかわからないから	42	(42.9)
コウノトリに興味・関心がないから	21	(21.4)
野生復帰がうまくいくかわからないから	8	(8.2)
その他	6	(6.1)
回答者数	98	-

表24. 野生復帰への賛否に関し「反対」の理由（複数回答を含む）.

選択肢	人数	(%)
税金の無駄だ／他の施策に税金をまわすべきだと思うから	15	(88.2)
農業に被害を与えるかもしれないと思うから	7	(41.2)
自分に何のメリットもないから	7	(41.2)
野外で生息するコウノトリを見て、否定的な感想を持ったから	3	(17.6)
コウノトリに気をつかわなければならないと思うから	0	(0.0)
野生復帰なんて無理／成功しないと思うから	0	(0.0)
コウノトリを目的に観光客などのよそ者が大勢来るから	0	(0.0)
その他	4	(23.5)
回答者数	17	-

あり、認知されている。そして、2017年度から市内の小
 学校・中学校で実施されている、コウノトリ学習を含め
 た「ふるさと教育」の取り組みの認知は30.0%であった。

次に、野生復帰に関連した質問の結果を述べる。まず
 野生復帰の賛否であるが、「おおいに賛成」が43.7%と最
 も多く選ばれ、次に「どちらかといえば賛成」が37.2%、「ど
 ちらともいえない」は16.3%となった（表21）。一方で「ど
 ちらかといえば反対」「おおいに反対」は合計して2.8%
 と少数であった。「賛成」（「おおいに」「どちらかといえ
 ば」を含む）・「どちらともいえない」・「反対」（「おおいに」「ど
 ちらかといえれば」を含む）の理由は以下の通りである（表
 22, 表23, 表24）。

野生復帰について「賛成」の理由で最も選ばれていた
 回答は、「環境にとっていいことだから」（51.8%）であり、

「豊岡市の活性化になるから」（49.0%）が続く（表22）。「そ
 の他」では、「コウノトリを見ると幸福感を得るから」、「人
 の行いが原因で数が少なくなってしまったのならば、人
 の手で元の状態に戻るのが道理だと思うから」、「特に反
 対するものもない」等の記述が見られた。

野生復帰について「どちらともいえない」と回答した
 理由については、「賛成・反対の気持ちを両方感じてい
 るから」と「自分の生活に関係があるのかわからないか
 ら」がほぼ同程度に多く選ばれていた（表23）。「その他」
 では、「経済効果を生み出せているとは思えない」、「維
 持費の件を考えると、どうかと思う」等といった費用面
 での理由が主に記述されていた。

野生復帰について「反対」の理由では、「税金の無駄
 だ／他の施策に税金をまわすべきだと思うから」が最も

表25. 野生復帰に関しての心配の有無.

選択肢	人数	(%)
心配する	155	(25.8)
心配していない	288	(47.9)
何も思わない	158	(26.3)
回答者数	601	(100.0)

表26. 野生復帰による心配の内容 (複数回答を含む).

選択肢	人数	(%)
野生に帰ることが成功するかどうか心配	76	(49.7)
農業面での心配 (農薬や除草剤を使えなくなる, 苗が踏まれるなどの心配)	51	(33.3)
鳥インフルエンザ等が発生するのではないかな	30	(19.6)
日常生活において, コウノトリに気をつかわなければならない	19	(12.4)
周辺の開発ができないのではないかな	10	(6.5)
その他	21	(13.7)
回答者数	153	-

表27. 野生復帰に関する期待の有無.

選択肢	人数	(%)
期待する	387	(64.2)
期待しない	216	(35.8)
回答者数	603	(100.0)

表28. 野生復帰に期待する内容.

選択肢	人数	(%)
自然環境の復元	203	(53.0)
観光客の増加	68	(17.8)
農業の活性化	49	(12.8)
豊岡市としてのまとまり	31	(8.1)
地域経済の振興	29	(7.6)
その他	3	(0.8)
回答者数	383	(100.0)

表29. 豊岡市内で生息するコウノトリに対する責任主体.

選択肢	人数	(%)
豊岡市 (行政)	179	(31.2)
誰も担わなくていい	105	(18.3)
豊岡市民全体	68	(11.8)
兵庫県 (行政)	61	(10.6)
県立コウノトリの郷公園	50	(8.7)
日本 (行政)	31	(5.4)
国民全体	28	(4.9)
但馬県民局	16	(2.8)
周辺の住民	8	(1.4)
兵庫県民全体	6	(1.0)
その他	22	(3.8)
回答者数	574	(100.0)

多く選ばれた (表24). 「その他」では「コロナ禍といわれ戦後最悪の経済状況の中, 市民生活を最優先した市政を運営してほしいです」, 「コウノトリのせいで税金がどこより一番高いから」, 「海外には普通に生息しているのでは?」といった理由の記述が見られた.

野生復帰に関する心配の有無については, 「心配する」は25.8%となった (表25). 野生復帰による心配の具体的な内容は「野生に帰ることが成功するかどうか心配」が49.7%と最も多くなり, 「農業面での心配」(33.3%), 「鳥インフルエンザ等が発生するのではないかな」(19.6%)が続いた (表26). 「その他」では, 「豊岡市の予算がそちらに削られすぎる」, 「コウノトリのエサが充分にあるか不安・心配」, 「コウノトリが今の環境の中でストレスなく生きているのか?」といった内容が複数記述されていた.

野生復帰に関しての期待では, 「期待する」と答えたのは回答者の64.2%であった (表27). 期待する内容について, 最も多かったのが「自然環境の復元」(53.0%)となった (表28). 次に選ばれた「観光客の増加」(17.8%)との差が大きく, 多くの回答者が環境面での効果を期待していることがわかる.

次に, 豊岡市内で生息するコウノトリに対する責任 (保護・事故の場合などを総合して) を誰が最も担うべきかについて質問した結果であるが, 「豊岡市 (行政)」(31.2%)が最も多くなり, 次に「誰も担わなくていい」(18.3%)となった (表29). 「豊岡市民全体」(11.8%)や野生復帰事業の拠点であり, 豊岡市内にある「県立コウノトリの郷公園」(8.7%)と比較して, 「豊岡市 (行政)」が最も多く選ばれている. 回答者は豊岡市内に生息するコウノトリについては豊岡市が主導してかかわるべきであると

表30. 豊岡市内で生息するコウノトリに対する責任主体の理由（自由記述，複数回答を含む）。

選択肢	理由	人数
周辺の住民	巣台があるため／状況を常に見ていられるため	2
豊岡市民全体	市民としての責任・課題・意識であるため	21
	コウノトリの生息・放鳥・共存地域だから	6
	コウノトリが好き・市民の誉だから	4
豊岡市（行政）	市や市長が主導・窓口・責任元だから	26
	市や市長の取り組み・事業だから	25
	税金を使っているから	8
	豊岡市を象徴する鳥だから	8
	行政の力が必要だから	6
	コウノトリの生息・放鳥・共存地域だから	5
	市民には専門的なことはわからないから	3
但馬県民局	県主導の取り組み・事業・活動だから	3
県立コウノトリの郷公園	コウノトリについて詳しいから・専門だから	11
	コウノトリを管理・担当・放鳥しているから	10
	専門知識が必要／一般人には難しいから	2
兵庫県（行政）	費用・責任・負担が重いため	6
	豊岡市だけの問題・取り組みではないから	4
	県鳥だから	4
	県が主導・窓口・責任元だから	3
	県立のコウノトリ保護施設があるから	2
国民全体	全国民で意識すべき・守るべきことだから	5
	コウノトリが全国へ向かうようになったから	4
	日本全体の問題だから	3
	特別天然記念物だから	2
日本（行政）	県・市だけでは厳しい／国の補助が必要だから	5
	行政主導・国の施策だから	3
	費用・責任・負担が重いため	3
	特別天然記念物・絶滅危惧種だから	3
誰も担わなくていい	自然のもの・野生の生物だから	28
	誰かが責任を負うという事ではないため	9
	特別扱いする必要はないため	8
	責任の種類・所在が不明なため	4

表31. 豊岡市において今後も野生復帰を推進していく上での課題。

選択肢	1番目		2番目	
	人数	(%)	人数	(%)
住民の理解・協力	201	(34.0)	52	(10.4)
コウノトリが生息できる環境の整備	90	(15.2)	103	(20.5)
費用の確保	81	(13.7)	89	(17.7)
わからない	56	(9.5)	24	(4.8)
「コウノトリとの共生」が目指す社会像・ビジョン	46	(7.8)	48	(9.6)
行政の組織・体制	45	(7.6)	42	(8.4)
コウノトリの野生復帰に関する知識や技術	24	(4.1)	34	(6.8)
関連する自治体・省庁等との連携	23	(3.9)	56	(11.2)
環境団体・NPOなどの存在	14	(2.4)	40	(8.0)
課題はない	5	(0.8)	11	(2.2)
その他	7	(1.2)	3	(0.6)
回答者数	592	(100.0)	502	(100.0)

考えていることが推察される。

責任主体の回答の理由について自由記述にて424人から回答を得たが、その中から他の回答者からも同様に挙げられている要素を抽出できた219人の記述を整理したものが表30となる（複数のキーワードを含んだ記述もあり、複数回答扱いとする）。前述の責任主体で最も多く選ばれた「豊岡市（行政）」では、「市や市長が主導・窓口・責任元だから」や「市や市長の取り組み・事業だから」が多い。例えば、「但馬県民局」や「兵庫県（行政）」、「日本（行政）」で同様のことが挙げられているが、多くの回答者にとってはコウノトリの野生復帰に関する取り組みは豊岡市が中心との認識が強いことが確認できた。

豊岡市において今後もコウノトリの野生復帰を推進していく上での課題について、1番目、2番目をそれぞれ回答してもらった形式をとった（表31）。結果は、1番目には「住民の理解・協力」が最も多く選ばれ、「コウノトリが生息できる環境の整備」、「費用の確保」が続く。2番目には「コウノトリが生息できる環境の整備」が最も多く選ばれていた。

次に、野生復帰の評価についてである。野生復帰の賛否は、コウノトリを野外に放すことへの賛否を尋ねているのに対し、野生復帰の評価は、約15年間実施されてきたコウノトリの野生復帰事業をトータルとしてどのように評価するのかを想定して尋ねた質問である。その結

表32.野生復帰の評価.

選択肢	人数	(%)
おおいに評価する	278	(46.6)
少し評価する	145	(24.3)
どちらともいえない	79	(13.3)
あまり評価しない	14	(2.3)
ほとんど評価しない	15	(2.5)
わからない	65	(10.9)
回答者数	596	(100.0)

表33. 評価の理由 (自由記述, 複数回答を含む).

評価	選択肢	人数
ポジティブ	コウノトリが増えた・身近になったから	114
	事業は努力した・成功したと言えるから	40
	観光客が増えたから	22
	豊岡市といえばコウノトリというイメージができたから	17
	自然環境が良くなった・昔に戻ったから	15
	市民の理解・協力・関心を得られたから	13
	絶滅危惧種を保護・救済・復帰できたから	11
	豊岡市の知名度が上がったから	10
	豊岡市が活性化(経済・学習・イメージ等)したから	9
	コウノトリの知名度が上がったから	7
	コウノトリブランドが認知された・売れているから	6
	無農薬・減農薬農法を広げることができたから	4
	良いこと・(世界的に)評価されているから	4
	自然との共存・共生に貢献したから	2
先進的な事業だから	2	
どちらともいえない/要望	他の政策・施策にも力を入れてほしい	9
	コウノトリより市民を優先してほしい	7
	もっとコウノトリ・豊岡市・事業を知ってほしい	7
	もっと環境整備をしてほしい	3
ネガティブ	事業の効果が不明だから	15
	費用・市の財政が心配/利益・経済効果が薄い	15
	事業の内容・目的が不明だから	7
	事業に興味・関心が湧かないから	7
	事業の必要性に疑問があるから	6
	コウノトリによる被害・悪影響があるから	6
	コウノトリを優先しすぎているから	5
	事業が限定的・縮小しているから	3

表34. 設問「『豊岡市を象徴するもの』と聞いて何を最も強くイメージしますか」に対する回答.

選択肢	人数	(%)
かばん	288	(47.8)
コウノトリ	179	(29.7)
温泉	32	(5.3)
但馬牛	15	(2.5)
盆地	14	(2.3)
そば	12	(2.0)
天候	12	(2.0)
カニ	11	(1.8)
円山川	10	(1.7)
神鍋高原	5	(0.8)
海水浴場	5	(0.8)
田んぼ	4	(0.7)
辰鼓楼	3	(0.5)
日本海	3	(0.5)
スキー場	2	(0.3)
玄武洞	1	(0.2)
オオサンショウウオ	0	(0.0)
その他	6	(1.0)
合計	602	(100.0)

果,「おおいに評価する」が46.6%と最も多く選ばれた(表32)。「おおいに評価する」と「少し評価する」を合計すると,約7割が野生復帰を評価していることになる。

評価理由に関して自由記述にて449人から回答を得た

が, その中から他の回答者からも同様に挙げられている要素を抽出できた280人の記述を, 「ポジティブ」, 「どちらともいえない/要望」, 「ネガティブ」の3つに整理したものが表33となる(複数のキーワードを含んだ記述もあり, 複数回答扱いとする)。

「ポジティブ」では, 「コウノトリが増えた・身近になったから」とする内容が最も多くなった。「どちらともいえない/要望」では「他の政策・施策にも力を入れてほしい」とする内容, 「ネガティブ」では「事業の効果が不明だから」, 「費用・市の財政が心配/利益・経済効果が薄い」とする内容が最も多くなった。

2-3) コウノトリの位置づけ

ここでは, 回答者にとってのコウノトリの位置づけ, コウノトリが豊岡市民にとってどのような存在なのかについて取り上げる。まず, 「豊岡市を象徴するもの」で最も強くイメージするものについては, 「かばん」(47.8%)が最も多くなり, 「コウノトリ」(29.7%)が続いた(表34)。「コウノトリのイメージ」については, 「赤ちゃん

表35. 設問『「コウノトリ」と聞いて何を最も強くイメージしますか』に対する回答。

選択肢	人数	(%)
赤ちゃんを運ぶ鳥	143	(23.7)
野生復帰／放鳥	140	(23.2)
兵庫県豊岡市	117	(19.4)
絶滅危惧種	78	(12.9)
自然環境	29	(4.8)
大空を飛ぶ	26	(4.3)
大きい	23	(3.8)
農業／米	18	(3.0)
美しい／きれい	16	(2.6)
害鳥	7	(1.2)
その他	7	(1.2)
回答者数	604	(100.0)

表36. 設問『あなたにとって「コウノトリ」とは何ですか』に対する回答。

選択肢	人数	(%)
豊岡市の誇り・象徴・シンボル	253	(42.3)
豊かな環境の象徴やバロメータ	108	(18.1)
他の生きものと一緒	67	(11.2)
豊岡市の活性化の起爆剤	40	(6.7)
かけがえのない生きもの	34	(5.7)
別に何も思わない	31	(5.2)
豊岡市を学ぶ・知るうえでの題材	26	(4.3)
農作物を販売するうえでの付加価値	9	(1.5)
世話のかかるもの・面倒なもの	8	(1.3)
経済効果を生み出すもの	5	(0.8)
苗を踏み倒す害鳥	5	(0.8)
その他	12	(2.0)
回答者数	598	(100.0)

表37. 野外で生息するコウノトリの死亡についての感想（複数回答を含む）。

選択肢	人数	(%)
野生の生き物なので仕方がない	423	(70.6)
かわいそう／悲しい	202	(33.7)
ゴミのポイ捨て・放置の対策が必要と感じる	142	(23.7)
人工物での事故（感電や防獣ネット等）の対策が必要と感じる	135	(22.5)
自然環境の整備が必要と感じる	123	(20.5)
今まで費やした税金の無駄だと思う	23	(3.8)
天敵となる動物を駆除すべきだと思う	22	(3.7)
関心・興味がない	11	(1.8)
行政に責任を感じる	10	(1.7)
これ以上野生復帰をする必要がないと思う	7	(1.2)
そもそも野生復帰をしなればよかった	3	(0.5)
その他	12	(2.0)
回答者数	599	-

表38. コウノトリの豊岡での生息希望の有無。

選択肢	人数	(%)
生息してほしい	478	(78.7)
生息してもらいたくない	3	(0.5)
どちらでもいい	107	(17.6)
関心がない	19	(3.1)
回答者数	607	(100.0)

表39. コウノトリが豊岡で「生息してほしい」と回答した理由。

選択肢	人数	(%)
自然環境が豊かであることを示すから	161	(34.0)
豊岡市の誇り・象徴・シンボルとなるから	139	(29.4)
もともとコウノトリが生息していたから	98	(20.7)
コウノトリが見たいから	39	(8.2)
豊岡市の活性化につながるから	29	(6.1)
経済効果を生み出すから	4	(0.8)
その他	3	(0.6)
回答者数	473	(100.0)

を運ぶ鳥」(23.7%)、「野生復帰／放鳥」(23.2%)がほぼ同程度で最も多く選ばれた(表35)。

「あなたにとって『コウノトリ』とは何ですか」の質問では、「豊岡市の誇り／象徴／シンボル」(42.3%)が最も多く選ばれた(表36)。

野外で生息するコウノトリが死亡してしまうことに関しては、「野生の生き物なので仕方がない」が70.6%と最も多く選ばれた(表37)。次に「かわいそう／悲しい」(33.7%)が続いた。

2.4) コウノトリの生息

コウノトリの生息に関して回答者がどのように考えているのか、生息希望や豊岡以外での移動・生息、現在の生息数や繁殖といった生息に関するものについて質問した結果は以下の通りである。

まず、豊岡での生息を希望するかについては、回答者

の78.7%が「生息してほしい」と回答した(表38)。「どちらでもいい」が17.6%であり、「生息してもらいたくない」は0.5%とごく少数であった。生息希望の理由では「自然環境が豊かであることを示すから」(34.0%)、「豊岡市の誇り・象徴・シンボルとなるから」(29.4%)が多く選ばれた(表39)。

コウノトリの豊岡以外への移動・生息に関する質問では、「豊岡で生息しているコウノトリがいれば豊岡以外に移動・生息してもかまわない」という回答が60.2%と最も多く選ばれた(表40)。次に選ばれたのが「豊岡でも豊岡以外でもどちらでもいい」(31.3%)であった。「豊岡でのみ生息してほしいので豊岡以外に移動・生息してほしい」という、豊岡のみでの生息を希望する回答は、4.1%とごく少数であった。

現在のコウノトリの生息数についてどのように認識し

表40. コウノトリの豊岡以外への移動・生息に関して.

選択肢	人数	(%)
豊岡で生息しているコウノトリがいれば豊岡以外に移動・生息してもかまわない	366	(60.2)
豊岡でも豊岡以外でもどちらでもいい	190	(31.3)
豊岡でのみ生息してほしいので豊岡以外に移動・生息してほしくない	25	(4.1)
関心・興味がない	22	(3.6)
豊岡以外に移動・生息してほしい	1	(0.2)
どこであってもコウノトリは生息してほしくない (=絶滅してほしい)	1	(0.2)
日本国内には生息してほしくない	0	(0.0)
その他	3	(0.5)
回答者数	608	(100.0)

表41. 現在の国内のコウノトリの生息数について.

選択肢	人数	(%)
多いと思う	69	(11.3)
ちょうどいいと思う	101	(16.6)
少ないと思う	188	(30.9)
わからない	250	(41.1)
回答者数	608	(100.0)

表42. 今後の国内のコウノトリの生息数について.

選択肢	人数	(%)
増えてほしい	310	(51.3)
現状の数を維持してほしい	124	(20.5)
減ってほしい	6	(1.0)
わからない	164	(27.2)
回答者数	604	(100.0)

表43. 現在の豊岡市内でのコウノトリの巣立ちの数について.

選択肢	人数	(%)
多いと思う	46	(7.6)
ちょうどいいと思う	147	(24.2)
少ないと思う	166	(27.3)
わからない	248	(40.9)
回答者数	607	(100.0)

表44. 今後の豊岡市内でのコウノトリの巣立ちの数について.

選択肢	人数	(%)
増えてほしい	309	(51.2)
現状の数を維持してほしい	128	(21.2)
減ってほしい	5	(0.8)
わからない	162	(26.8)
回答者数	604	(100.0)

表45. 豊岡市内でこれからもコウノトリが生息するために何かする意思の有無.

選択肢	人数	(%)
はい (意思あり)	339	(56.2)
いいえ (意思なし)	264	(43.8)
回答者数	603	(100.0)

表46. 豊岡市内でこれからもコウノトリが生息するためにする内容 (複数回答を含む).

選択肢	人数	(%)
環境に配慮した生活を実践する (ゴミ減量, 省エネなど)	190	(56.2)
コウノトリを大事に思うようにする	165	(48.8)
農業をできるだけ使わない / 農業をできるだけ使っていない作物を買う	81	(24.0)
コウノトリの生息地づくりに協力する (田んぼ・湿地・里山など)	51	(15.1)
コウノトリを活かした経済活動に協力する (コウノトリ関連商品の販売・購入など)	48	(14.2)
その他	3	(0.9)
回答者数	338	-

ているのかについて尋ねた. 具体的には, アンケート票の質問で「2020年9月30日時点で, 日本国内で227羽のコウノトリが野外で生息しています」と説明した上で, 現在の生息数と今後の生息数についてどう思うかを質問した. 現在の生息数については, 「わからない」(41.1%), 「少ないと思う」(30.9%) が多く選ばれた (表41). 今後の生息数については, 「増えてほしい」が51.3%と最も多く選ばれ, 「減ってほしい」は少数であった (表42).

次に, 豊岡市内でのコウノトリの繁殖についてどのように認識しているのかについて尋ねた. 具体的には, アンケート票の質問で「2020年の野外での繁殖シーズンを終えて, 豊岡市内では27羽のコウノトリが巣立ちました」と説明した上で, 現在の数と今後の数についてどう思うかを質問した. 現在の数については, 「わからない」

(40.9%)が最も多くなった (表43). 今後の数については, 「増えてほしい」が51.2%と最も多く選ばれ, 「減ってほしい」は少数であった (表44). 国内の生息数も豊岡市内での巣立ち数についても, 好意的な意見が多かったが, 一方で「わからない」とする回答も多い.

豊岡市内でこれからもコウノトリが生息するために何かする意思 (参加姿勢) を質問した結果, 「はい」(意思あり)は56.2%となった (表45). 具体的な内容では, 「環境に配慮した生活を実践する」(56.2%)が最も多く, 「コウノトリを大事に思うようにする」(48.8%)が続いた (表46).

次に農業被害について質問した結果を取り上げる. かつてコウノトリは害鳥視されていたこともあり, 現時点では問題化されていない状況であるが, 生息数が増加

表47. 将来コウノトリが農業に被害を与えると思うか.

選択肢	人数	(%)
はい	81	(13.4)
いいえ	168	(27.7)
わからない	357	(58.9)
回答者数	606	(100.0)

表48. 深刻な被害の場合の対処方法.

選択肢	人数	(%)
被害がまだ発生していないので、現段階で議論する必要はないと思う	167	(39.5)
被害を受けた農家への金銭的補償	143	(33.8)
捕獲、場合によっては駆除	29	(6.9)
関心・興味がない	26	(6.1)
何もするべきではない	24	(5.7)
その他	34	(8.0)
回答者数	423	(100.0)

注：農業に被害を与えると思うかについて、「はい」「わからない」と回答した人のみに質問した。

表49. 実際に身の周りでコウノトリによる被害が発生しているか.

選択肢	人数	(%)
深刻な被害が発生している	0	(0.0)
少し被害が発生している	20	(3.3)
発生していない	366	(61.1)
わからない	213	(35.6)
回答者数	599	(100.0)

表50. 被害内容の整理.

年代	性別	居住地		農業従事別	被害内容
		地区	集落		
70歳代 回答しない	男性 回答しない	豊岡地区	江野	農業（専業）	田んぼの稲の苗を踏んでいます。
		豊岡地区	中筋	農業（専業）	聞いた話では、フン害があるときている。
70歳代	女性	日高地区	無回答	農業（専業）	国道の横で30aの田1/4位稲をふみ込まれた。
70歳代	男性	出石地区	中村	農業（兼業）	田植したすぐあと歩きまわりなえをふみたおす。 田植したあとの稲をふむことがあります。こうのとりを保護するため、さぎなどの鳥が多くなり困ります。川の魚、あゆなどもサギに食べられます。
70歳代	男性	但東地区	無回答	農業（兼業）	稲の若苗時に踏む事。
70歳代	男性	豊岡地区	一日市	非農業	電柱に飛来して道路に糞をする。
60歳代	男性	豊岡地区	奥野	非農業	稲をふんでいる。
60歳代	女性	豊岡地区	無回答	非農業	田植の後に、コウノトリが歩いている。
無回答	無回答	豊岡地区	赤石	非農業	巣塔の周囲の水田に糞や木の枝ちらばって稲作には不都合。
回答しない	男性	豊岡地区	下加陽	非農業	田の稲がたおされている。
回答しない	女性	豊岡地区	無回答	非農業	コウノトリのことに豊岡市の予算が費やされている。
70歳代	男性	出石地区	袴狭	非農業	農作物の害獣防止用の網によく引っかかっているのを聞く。
50歳代	男性	出石地区	小坂	非農業	車にフンをおとされる、汚い。
30歳代	男性	出石地区	無回答	非農業	カタカタクチバシを鳴らしてやかましい。家のちかくの田んぼ。
無回答	女性	出石地区	無回答	非農業	電柱の下に羽が多くおちた。
60歳代	男性	日高地区	無回答	非農業	田植直後の苗を大足で踏みつけられた。
20歳代	男性	但東地区	中山	非農業	稲をふみたおされた。

注：「回答しない」は「回答しない」という選択肢を選んだ場合であり、「無回答」は回答欄に回答していない場合となる。

することで今後問題視される可能性も考えられる。将来コウノトリが農業に被害を与えると思うかどうか質問した結果は「わからない」が58.9%と最も多く、「はい」が13.4%となった（表47）。多くの回答者が現時点では被害の可能性について「わからない」と判断ができないと考えていることが伺える。被害が深刻な場合の方法としては、「被害がまだ発生していないので、現段階で議論する必要はないと思う」（39.5%）、「被害を受けた農家への金銭的補償」（33.8%）が多く選ばれていた（表48）。

実際に回答者の身の周りでコウノトリによる被害が発

生しているかについては、「発生していない」が61.1%と最も多く選ばれ、「深刻な被害が発生している」はゼロ回答、「少し被害が発生している」は3.3%であった（表49）。この20人に具体的な被害内容を自由記述形式で質問したところ、18人から回答があった。この18人の年代、性別、居住地、農業従事別で整理したものが表50となる。多くが苗踏みといった農業被害であるが、フン害についても数件記述があった。農業従事は5人であることから、回答者自身が受けた被害というよりは、家族や居住する集落内での被害であることが推察される。

表51. コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動の対象.

選択肢	1番目		2番目	
	人数	(%)	人数	(%)
生息地周辺の住民	70	(11.8)	30	(6.0)
豊岡市全域の住民	250	(42.2)	85	(17.0)
豊岡市全域の子ども (保育園・幼稚園)	23	(3.9)	22	(4.4)
豊岡市全域の子ども (小学生)	71	(12.0)	76	(15.2)
豊岡市全域の子ども (中学生)	5	(0.8)	25	(5.0)
豊岡市全域の子ども (高校生)	7	(1.2)	9	(1.8)
行政職員	24	(4.0)	26	(5.2)
豊岡市内の農業従事者	27	(4.6)	56	(11.2)
観光業者	5	(0.8)	16	(3.2)
観光客	9	(1.5)	40	(8.0)
国民全体	96	(16.2)	114	(22.8)
その他	6	(1.0)	1	(0.2)
回答者数	593	(100.0)	500	(100.0)

表52. コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動の内容.

選択肢	人数	(%)
コウノトリを含む豊岡市内の自然環境	153	(27.2)
コウノトリの生態・特徴	84	(14.9)
コウノトリを活用した地域活性化の取り組み	73	(13.0)
今後のコウノトリの野生復帰計画の展望	56	(9.9)
コウノトリの天敵やコウノトリの生息を脅かす外来種	52	(9.2)
兵庫県・豊岡市によるコウノトリの保護政策	44	(7.8)
コウノトリの飼育数および野生下での生息数	31	(5.5)
コウノトリが生息している場所の情報	22	(3.9)
水田やビオトープに生息する生きもの	12	(2.1)
市民団体によるコウノトリの保護活動	11	(2.0)
コウノトリと他の鳥との違いや見分け方	8	(1.4)
その他	17	(3.0)
回答者数	563	(100.0)

表53. コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動の方法.

選択肢	人数	(%)
学校の授業中での学習・体験活動	185	(32.1)
紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信	101	(17.5)
インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信	89	(15.4)
コウノトリに関するイベント・研修会・講習会の実施	55	(9.5)
ポスターやチラシ、ステッカーなどを活用した広報活動	50	(8.7)
コウノトリの見学や観察	37	(6.4)
生息地整備などのボランティア活動	31	(5.4)
その他	29	(5.0)
回答者数	577	(100.0)

表54. コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動が豊岡市で必要かどうか.

選択肢	人数	(%)
はい	417	(68.8)
いいえ	22	(3.6)
わからない	167	(27.6)
回答者数	606	(100.0)

市全域の住民」、「豊岡市全域の子ども (小学生)」が続いた。

環境教育や啓発活動の内容については、「コウノトリを含む豊岡の自然環境」が最も多く選ばれ、「コウノトリの生態・特徴」や「コウノトリを活用した地域活性化の取り組み」が続いた (表52)。環境教育や啓発活動の推進方法としては、「学校の授業中での学習・体験活動」が最も多く選ばれ、「紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信」、「インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信」が続いた (表53)。

コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動が豊岡市で必要かどうかについては、「はい」とした回答が68.8%であった。一方で「わからない」とする回答も27.6%となった (表54)。野生復帰のための環境教育や啓

2-5) コウノトリの野生復帰のための環境教育・啓発活動

コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動の対象については、1番目、2番目をそれぞれ回答してもらう形式をとった (表51)。1番目に最も多かったのが、「豊岡市全域の住民」の42.2%であり、「国民全体」、「豊岡市全域の子ども (小学生)」、「生息地周辺の住民」が続いた。2番目は、「国民全体」が22.8%と最も多く選ばれ、「豊岡

表55. コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動が豊岡市で行われていると思うか.

選択肢	人数	(%)
十分に行われていると思う	111	(18.5)
少し行われていると思う	199	(33.1)
あまり行われていないと思う	74	(12.3)
まったく行われていないと思う	3	(0.5)
わからない	214	(35.6)
回答者数	601	(100.0)

表56. 未来の豊岡市：コウノトリの生息数についての回答.

選択肢	人数	(%)
増えている	305	(52.2)
現状の数を維持している	138	(23.6)
減っている	14	(2.4)
わからない	127	(21.7)
回答者数	584	(100.0)

表57. 未来の豊岡市：人とコウノトリの関係についての回答（複数回答を含む）.

選択肢	人数	(%)
まちづくりの観点から「地域のシンボル」になっている	310	(52.8)
自然環境の豊かさを示す指標とみなされている	194	(33.0)
豊岡市の歴史・文化・自然を学ぶ題材・教材になっている	158	(26.9)
他の野鳥と変わらない「普通の鳥」になっている	120	(20.4)
保護活動により引き続き「希少な鳥」と扱われている	94	(16.0)
わからない	42	(7.2)
コウノトリによる農業被害等により「害鳥」となっている	10	(1.7)
その他	6	(1.0)
回答者数	587	-

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



図1. SDGsの17のゴールのイラスト.

発活動が豊岡市でどの程度行われていると思うかについては、「わからない」が35.6%と最も多くなり、「少し行われていると思う」が33.1%で続く（表55）。一部の回答者には環境教育や意識啓発の重要性や取り組みや活動の進捗状況が十分認識されていないということが伺える。

2-6) 未来の豊岡市（コウノトリの生息数、コウノトリとの関係、SDGs）

冒頭で述べたように、豊岡市に限らず、放鳥事業や野外繁殖を通じて、コウノトリに関係する自治体は増えつつある。しかし、今後も豊岡市がコウノトリの野生復帰に関する取り組みの中心的な自治体であることは、これまでのコウノトリの保護活動の歴史や野生復帰事業の中心的拠点であることから確かといえる。2011年8月に兵庫県立コウノトリの郷公園が「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」を策定し、「野生復帰のゴール」につ

いても記載しているが、「野生復帰のゴール」を考えることは、すなわち、将来の豊岡市を考えることでもあるといえ、未来の豊岡市において、人とコウノトリとの関係がどのようなものになっているのか、コウノトリの生息数、人とコウノトリとの関係、豊岡市の社会の3つの質問をした。

コウノトリの生息数については、「増えている」が52.2%と最も多く選ばれていた（表56）。人とコウノトリとの関係では、「まちづくりの観点から『地域のシンボル』となっている」が52.8%と最も多く選ばれていた（表57）。コウノトリが「増えている」と予想される中で、「地域のシンボル」としての捉え方が継続されていくことを示唆するものとなった。

豊岡市の社会については、SDGsの説明文を以下の通り入れ、17のゴールについてはイラスト（図1）と文字

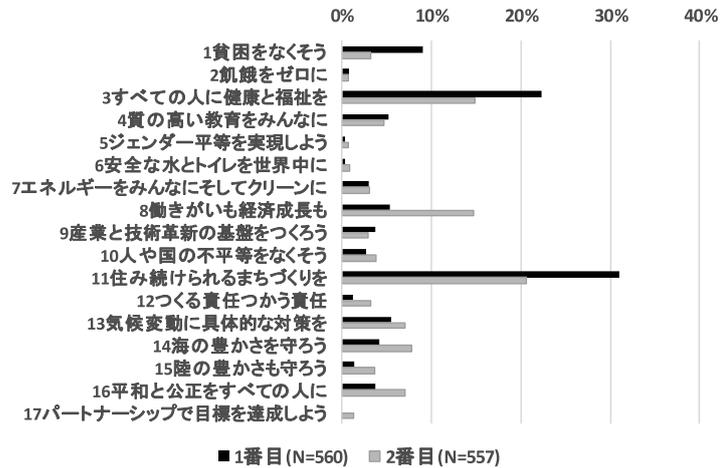


図2. 未来の豊岡市：豊岡市の社会（SDGsで実現してほしい目標）。

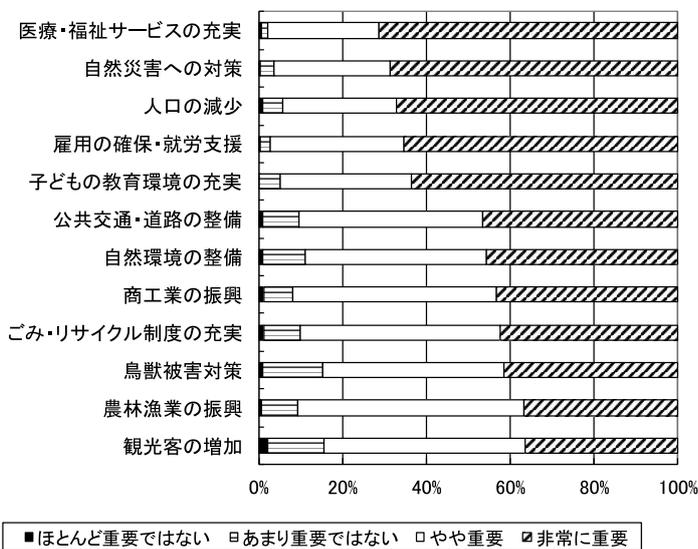


図3. 豊岡市の課題。
注：それぞれの回答者は以下の通りである。「医療・福祉サービスの充実」573人、「自然災害への対策」576人、「人口の減少」580人、「雇用の確保・就労支援」573人、「子どもの教育環境の充実」569人、「公共交通・道路の整備」575人、「自然環境の整備」571人、「商工業の振興」570人、「ごみ・リサイクル制度の充実」572人、「鳥獣被害対策」575人、「農林漁業の振興」571人、「観光客の増加」569人。

の両方で示した。未来の豊岡市の社会として実現してほしい目標として、1番目、2番目を回答してもらう形式とした。

「2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）というものがああります。これは2030年までに目指す世界の姿をあらわした目標の集まりであり、持続可能な社会を目指す取組みとして注目されています。SDGsは、17の目標（ゴール）から構成され、以下の図は、17の目標の要約をイラストで示しています。」

結果は図2に整理した。1番目で最も多く選ばれていたのが、「11:住み続けられるまちづくりを」(31.1%)であり、「3:すべての人に健康と福祉を」(22.3%)が続いた。2番目で最も多く選ばれていたのも「11:住み続けられるまちづくりを」(20.6%)であり、「3:すべての人に健康と福祉を」(14.9%)と「8:働きがいも経済成長も」(14.7%)

が続いた。

冒頭でも述べたように、豊岡市では人口減少が続いている。そのため「11:住み続けられるまちづくりを」が重視されていること、さらに、現在新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大が世界的にも国内的にも続いており、その影響が経済面に大きく及んでいることが回答に影響を与えていることも留意しておきたい。

2-7) 豊岡市の課題

豊岡市の課題として12項目を挙げ、それぞれの重要度を質問した。結果、「非常に重要」の上位は「医療・福祉サービスの充実」、「自然災害への対策」、「人口減少」であり、下位は「観光客の増加」、「農林漁業の振興」、「鳥獣被害対策」であった（図3）。各項目の平均値と標準偏差（質問において「非常に重要」に4、「やや重要」に3、「あまり重要ではない」に2、「ほとんど重要ではない」に1を併記していた）は表58に整理した。平均値は、上位が「医

表58. 豊岡市の課題：課題としての重要性の程度（平均値と標準偏差）.

項目	平均値（標準偏差）
医療・福祉サービスの充実	3.68 (0.54)
自然災害への対策	3.64 (0.57)
雇用の確保・就労支援	3.62 (0.56)
人口の減少	3.60 (0.63)
子どもの教育環境の充実	3.58 (0.59)
公共交通・道路の整備	3.36 (0.68)
商工業の振興	3.34 (0.66)
自然環境の整備	3.34 (0.70)
ごみ・リサイクル制度の充実	3.31 (0.69)
農林漁業の振興	3.26 (0.64)
鳥獣被害対策	3.25 (0.73)
観光客の増加	3.18 (0.74)

表60. 設問『豊岡市に生息する、コウノトリ以外で「守るべき野生動植物」は何か』に対する回答（自由記述）.

回答	人数	(%)
オオサンショウウオ	81	(33.3)
サンショウウオ	15	(6.2)
ホタル	8	(3.3)
すべての動植物	7	(2.9)
カニ/モクズガニ/松葉ガニ	7	(2.9)
川魚	7	(2.9)
水辺の動植物	6	(2.5)
人間/子供	6	(2.5)
シカ/鹿	6	(2.5)
柳	6	(2.5)
鮎	5	(2.1)
メダカ	5	(2.1)
自然環境	4	(1.6)
ワシ/イヌワシ/オオワシ	4	(1.6)
イノシシ/猪	4	(1.6)
桜	4	(1.6)
サギ/シラサギ	4	(1.6)
トンボ	4	(1.6)
キジ	3	(1.2)
熊/ツキノワグマ	3	(1.2)
野鳥/渡り鳥	3	(1.2)
野草	2	(0.8)
カエル	2	(0.8)
カワセミ	2	(0.8)
米	2	(0.8)
スズメ	2	(0.8)
但馬牛	2	(0.8)
ツバメ	2	(0.8)
保護された動物	2	(0.8)
ハッチョウトンボ	2	(0.8)
その他	33	(13.6)
回答者数	243	(100.0)

注：2つ以上回答のあった項目を挙げ、1つのみの回答は「その他」とした。

療・福祉サービス」が3.68であり、下位は「観光客の増加」の3.18となった。

図3や表58から、「医療・福祉サービスの充実」が重視されており、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響もあると思われるが、一方で、「観光客の増加」、「農林漁業の振興」は相対的にその重要性が低くなった。

また、住民に把持されている「豊岡市の環境課題」について、アンケート票では「豊岡市には、どのような環境の課題があると思いますか？」と自由記述形式で質問

表59. 豊岡市の環境課題（自由記述、複数回答を含む）.

分野	選択肢	人数
野生動物	野生動物による被害（農作物・交通事故等）	163
	野生動物との共生・共存	16
	野生動物の増加	11
	害獣の捕獲・駆除	9
	外来種の問題	2
自然	海・山等の環境整備/自然開発	19
	森林・里山の荒廃/河川の水質問題	15
	耕作放棄地の増加/農地や田畑の維持・管理	14
	治水/台風・大雨等による水害対策	11
	人間による自然破壊・汚染	8
	環境保護/自然保護	7
	自然災害への対策	6
	環境保護と経済活動・開発の両立	4
	環境に関する教育・周知・意識改革	4
	気候変動対策/温暖化防止策	3
	夏の暑さ/冬の積雪や路面凍結等	3
ゴミ問題	再生可能エネルギーの開発・普及	2
	二酸化炭素の削減	2
	ゴミ問題（リサイクル・海洋ゴミ・不法投棄等）	45
その他	ゴミのポイ捨て問題	17
	過疎化/人口減少問題	8
その他	税金の使い方・使い道/財源の確保	4
	市の活性化・観光事業/イベントの充実	4
	空き家問題/無縁墓問題	4
	高齢化問題	4
		3

をした。348人から回答を得たが、その中から他の回答者からも同様に挙げられている要素を抽出できた313人の記述を整理したものが表59となる（複数のキーワードを含んだ記述もあり、複数回答扱いとする）。最も多く記述があったのは「野生動物」に関するものであり、農作物、交通事故等の被害が挙げられていた。

豊岡市に生息するコウノトリ以外の「守るべき野生動植物」を自由記述1つ回答する質問結果は、最も多く記述されていたのは「オオサンショウウオ」であった（表60）。

考察

アンケート調査の結果から、最初の放鳥から15年が経過した時点で、コウノトリおよび野生復帰が市民に肯定的に捉えられていることが確認できた。また、これまでの調査結果をふまえても、コウノトリを「地域のシンボル」とする捉え方が市民の中で継続していることがわかった。今回のアンケート調査の質問にあった将来のコウノトリとの関係について、生息数が「増えている」が最も多く選ばれる一方で「地域のシンボル」とすることも最も多く選ばれており、今後も「地域のシンボル」としての捉え方が続くことが予想される。回答者の9割以上が野外でのコウノトリを目撃したことがあり、目撃の際の感想も好意的であり、それらの経験が野生復帰事業を評価する背景にもなっていると考えられる。なお、かつ

ては住民の中にコウノトリを害鳥とする見方が存在していたが、最初の放鳥から15年が経過し、市内での生息数が15年前と比較して増加している状況において、このような害鳥視している回答は少数であった。そもそも多くの回答者がコウノトリの被害を受けていないことや、害鳥とみなされていた当時と現在とでは農業環境が異なっていることが理由として考えられるが、豊岡市ではコウノトリを「地域のシンボル」とし、「コウノトリとの共生」をまちづくりの柱にしており、そのことがかつての害鳥視を転換させていることが推察される。

また、前回の2015年の調査結果では、単に地域活性化という「経済」を意識するだけでなく、「環境」の保全も併せて意識されていることが認められた(本田2016)。今回の調査結果でも、野生復帰の賛成理由では「環境にとっていいことだから」、野生復帰への期待では「自然環境の復元」が最も多く選ばれていた。本研究冒頭で述べたように、羽山(2019)が再導入を「生態系の復元を行うための手法」や「自然再生のひとつ」と評していたが、今回の調査結果により、コウノトリについては前述の「地域のシンボル」という捉え方とともに「環境」との関連づけが定着していることを確認することができた。

一方で、コウノトリの生息数や繁殖数は「増えてほしい」とする意見が最も多く、市内での生息希望も高い割合を示したが、市内でコウノトリがこれからも生息するために何かする意思の割合についてはこれらの回答結果と比較すると低い割合である。さらに別の質問結果の、豊岡市内で生息するコウノトリの責任主体では「豊岡市(行政)」が最も多く選ばれていること、そして今後の豊岡市での野生復帰推進の課題では「住民の理解・協力」が最も多く選ばれていること等をふまえると、コウノトリの野生復帰の取り組みに関連する市民の具体的な活動の機会を設定していくことが必要といえる。コウノトリおよび野生復帰を肯定的なものとして捉えながらも、現在のコウノトリの生息数や市内での巣立ち数についての評価を「わからない」とする回答、または野生復帰のための環境教育や啓発活動が市内で必要か、どの程度行われているかについて、「わからない」とする回答が一定数あった。このような回答の背景として、市民がコウノトリや野生復帰について「知る・学ぶ」機会が十分でないということが考えられる。2017年度からは豊岡市内の小学校・中学校で「ふるさと教育」を通じたコウノトリ学習が開始されているが、アンケート調査の結果からは、コウノトリの野生復帰のための環境教育や啓発活動の対象

として期待されるのは「豊岡市全域の住民」が最も多く、その方法としては、「紙媒体の広報誌を通じた定期的な情報の発信」や「インターネットのサイトを通じた定期的な情報の発信」が多く選ばれていた。つまり、学校教育だけの取り組みのみでなく、紙媒体の広報誌とインターネットのサイトを活用した市民に向けた発信、そして可能であれば学校教育と学校外での啓発活動を連携させて、豊岡市全体に発信していくニーズが存在していると考えられる。

そして、豊岡市の課題やSDGsで実現してほしい目標に関する質問の結果、「自然災害」や「人口減少」の対策は重要課題であると市民に認識されていた。近年全国各地で自然災害が多発し、本研究の冒頭で述べたように豊岡市の人口は減少傾向にあることから、SDGsで実現してほしい目標に「住み続けられるまちづくりを」が最も多く選ばれていると思われる。そして、豊岡市の環境課題では野生動物による被害が最も多く挙げられ、これは前回2015年調査でも同様であった(本田2016)。したがって、豊岡市が抱えている課題である自然災害や人口減少の課題、そして野生動物による被害問題について、「地域のシンボル」であり、「豊かな自然環境の象徴」であるコウノトリとリンクさせていくことが望ましいのではないかと考えられる。ちなみに2011年調査や2015年調査では、野生復帰への懸念や批判の回答の多くは費用(税金)面であることが指摘されている(本田・菊地2011)(本田2016)。今回の調査結果でも同様の指摘が見られた。そういった懸念を示したり批判をしたりする回答者は、コウノトリの野生復帰の取り組みを「コウノトリのためにだけ効果がある」というように一面的に捉えているものと推察される。したがって、コウノトリの野生復帰の取り組みを、豊岡市の課題解決の方策と連携させて、野生復帰事業が多面的な効果をもたらす期待があるということを、発信していく工夫も必要である。2011年調査、2015年調査、そして今回の調査において提示された批判は依然として少数ではあるが、コロナ禍により今後厳しい経済状況が続くと予想される中、市の当該関連予算のあり方に対する批判が今後増えていく可能性もある。そのため、前述の市民の活動機会の設定と併せて、豊岡市が野生復帰をどのように捉えているのか、そのためにどのような事業を行っているのか、そしてそれらの事業によって市民の生活はどのように豊かになるのかについて、改めて市民に積極的に説明し発信していくことは、市民の肯定的な認識が今後も継続していくことを期待する上で必要な作業であるといえる。

今回の調査は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の中での実施となった。「医療・福祉サービスの充実」や「すべての人に健康と福祉を」についての希求は、コロナ禍ゆえに改めて可視化され重要視されるようになったといえる。また、今回の調査では、「豊岡市の自然」としてイメージするものに「円山川」が、そして豊岡市内でコウノトリ以外の「守るべき野生動植物」として「オオサンショウウオ」が最も多く挙げられていた。つまり円山川もオオサンショウウオも、豊岡市の自然を象徴するものとして重要であり、コウノトリとともに今後保全されていくことと、その方策の検討が具体的に進むことが期待される。

謝 辞

本研究で取り上げたアンケート調査は、科学研究費補助金（基盤研究C：19K03121）を受けて実施しました。アンケート調査に返信いただいた兵庫県豊岡市の皆様にはお忙しいところ回答いただき、まことにありがとうございます。アンケート調査の実施に際して、豊岡市コウノトリ共生課の宮垣均氏・戸田早苗氏をはじめとする豊岡市役所の皆様には多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。併せて、大正大学社会共生学部の高橋正弘先生にはアンケート調査の企画から考察に至るまで多くのアドバイスをいただきましたので、ここで厚く謝意を表します。

摘 要

2005年に兵庫県豊岡市で実施されたコウノトリの放鳥から15年が経過した時点でのコウノトリおよび野生復帰に関する豊岡市民の意識を把握するためにアンケート調査を実施した。調査は住民基本台帳から無作為抽出した20歳から79歳までの男女1,000人を対象に郵送方式にて実施し、回収率は61.1%となった。結果から、コウノトリおよび野生復帰が市民に肯定的に捉えられていることが確認できた。先行研究をふまえても、コウノトリを「地域のシンボル」とする捉え方が市民の中で継続している

ことがわかった。そして、コウノトリに対して「環境」との関連づけが定着していることも確認することができた。一方で、現在の生息数等の評価や野生復帰の取り組みの現状について「わからない」とする回答者も一定数おり、また、少数であるが費用面から野生復帰に批判的な意見もあった。以上のことから、野生復帰を今後継続していく上では、市民全体に向けた意識啓発の工夫が求められる。

キーワード アンケート調査, コウノトリ, 地域のシンボル, 兵庫県豊岡市, 野生復帰

引用文献

- 羽山伸一（2019）野生動物問題への挑戦. 東京大学出版会, 東京, 180 p.
- 本田裕子（2006）放鳥直後における住民の視点からのコウノトリ放鳥の意義－新豊岡市全域のアンケート調査から. 東京大学農学部演習林報告, 116:113-143.
- 本田裕子（2016）兵庫県豊岡市におけるコウノトリの最初の放鳥から10年経過後の野生復帰に関する住民意識について. 大正大学研究紀要, 101:210-178.
- 本田裕子・菊地直樹（2011）コウノトリの野生復帰に関する住民アンケート（2011年1月）結果報告. 野生復帰, 1:93-107.

付記

- 総務省地域力創造グループ過疎対策室「平成30年度版 過疎対策の現況（概要版）（2021年2月11日閲覧）
https://www.soumu.go.jp/main_content/000686432.pdf
- 兵庫県立コウノトリの郷公園「野外個体数」（2021年2月11日閲覧）
http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/in_situ/in_situ_ows_num/
- 兵庫県立コウノトリの郷公園「コウノトリ野生復帰ランドデザイン」（2021年2月11日閲覧）
http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/downloads/grand_design.pdf

